

佐賀県研究成果情報

| | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|--------------|
| ニホンナシ「新高」のていあ部亀裂の発生防止技術 | | | | | |
| [要約] ニホンナシ「新高」のていあ部亀裂は、摘果時に花叢の中で遅く咲いた花及び有てい果を残すこと、交配後20日頃の小さな袋掛け、満開後10日から10日間隔で5回のカルシウム剤散布により軽減できる。 | | | | | |
| 果樹試験場・落葉果樹研究室・大分農技セ | | | | 連絡先 | 0952-73-2275 |
| 部会名 | 果 樹 | 専 門 | 栽 培 | 対 象 | ナシ |

[背景・ねらい]

ニホンナシ「新高」は、果実の肥大後期にていあ部表面に亀裂が生じ、進行すると果肉内部にまで達する、いわゆる裂果症状を呈して商品性を著しく損ねる場合が多い。そこで、亀裂の発生要因を明らかにするとともに、発生防止技術を開発する。

[成果の内容・特徴]

1. ていあ部の亀裂は、花叢の中で遅く咲いた花の果実、有てい果で発生が少ない(図1)。摘果時にこのような果実を優先的に残せばていあ部の亀裂発生果率を低減させることができ、品質上の問題は特にない(第1図)。
2. 交配後20日にパラフィン一重の小さな袋を掛けると、ていあ部の亀裂発生を軽減できる(表1)。また、果実品質は肥大が良好になる。
3. 交配後10日から10日間隔で5回複合カルシウム剤を散布すると、ていあ部の亀裂発生を軽減できる(表2)。また、果実品質は肥大が良好になる。

[成果の活用面・留意点]

1. カルシウム剤の効果は、園地や年次間で差があるとともに激発したときには必ずしも効果が十分でない場合もある。
2. 摘果時に残す果実の選択、小さな袋掛け、カルシウム剤の散布技術は併用することで、ていあ部亀裂防止効果はさらに高まる。
3. 晩夏から収穫期の土壌水分の急変はていあ部亀裂の発生を助長するのでかん水やマルチなど適正な土壌水分の保持につとめる。

[具体的データ]

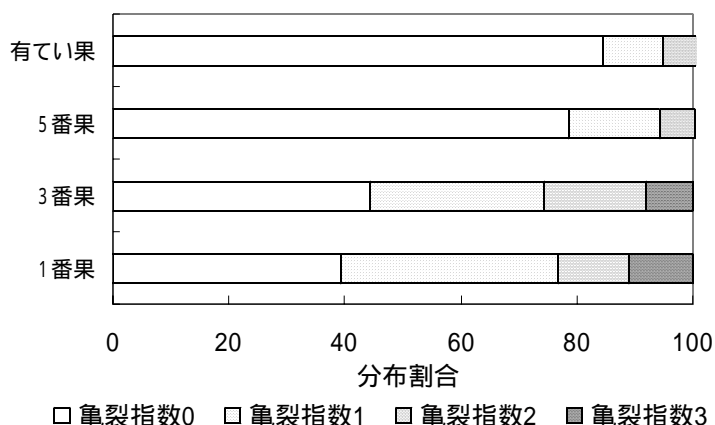


図1 「新高」果実の着果番位とていあ部の亀裂発生 (2000大分農技セ)

表1 「新高」果実への小袋掛けとていあ部の亀裂発生 (2000 佐賀果試)

| 試験区 | 亀裂指数 | | | | | 重症果率 ¹⁾ |
|------|------|------|------|------|-----|--------------------|
| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| 小袋掛け | 56.0 | 24.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 無処理 | 36.0 | 36.0 | 12.0 | 16.0 | 0.0 | 16.0 |

1) 亀裂指数3以上

表2 「新高」樹へのカルシウム剤散布とていあ部の亀裂発生 (2000 佐賀果試)

| 試験区 | 亀裂指数 | | | | | 重症果率 |
|------------------------|-------|-------|------|------|------|------|
| | 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | |
| カルシウム剤散布 ¹⁾ | 63.3% | 36.7% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 無処理 | 36.7 | 46.7 | 10.0 | 6.7 | 0.0 | 6.7 |

1) 複合カルシウム剤を交配後10日から10日間間隔で5回散布

[その他]

研究課題名：西南暖地の特性を活かした晩生ナシの超高収益栽培技術の開発

予算区分：助成試験（新技術地域実用化）

研究期間：1997～2001年度

研究担当者：熊本県、長崎県、大分県

佐賀県：稲富和弘、松瀬政司、福田浩幸

発表論文等：平成13年度佐賀県果樹試験場業務年報